

とくしま魅カスポット

徳島県内のキラッと光る商品や技術、様々な活動にもスポットを当て、創造の現場から発信される声や笑顔、そして、こだわりの品々をレポートします。

徳島白菊特攻隊を語り継ぐ会

戦後70年を迎える本年、1月に「徳島白菊特攻隊を語り継ぐ会」が設立され、活動が始まった。徳島白菊特攻隊とは？語り継ぐ会の活動とは？会長の山下釈道さんにお話をお伺いしました。



このこて絵は、戦争体験者でもある松茂町在住の春藤嘉雄さんが作成し、会に贈ったもの。

◆設立のきっかけは？

私自身は、裏千家のお茶をやっています。前家元の千玄室さんが徳島白菊特攻隊の隊員であつたということで、以前から特攻隊の話は聞いていました。そんな時、

2010年頃から徳島白菊特攻隊の出撃日に合わせて追悼の花火があげられているということを知り、一昨年よりこの追悼花火に私も協力するようになりまし。当時、出撃の前にお茶が振舞われていたという話も聞いていたので、私は花火の現場で皆様にもそうさせて頂いています。

また、その現場で、徳島白菊特攻隊の元隊員である田尻正人さんに出会いました。これまでに「たまたま生き残った者の務めとして、戦争を知らない世代に戦争の悲惨さ、愚かさを伝えていかなければならない」と、様々な活動をされてきた方です。しかし、昨年からは足を悪くされ、語り部としての活動が制約されてし

まうことに危機感を覚えそこで今年1月にこの会を立ち上げたというのが大まかな経緯ですね。

◆徳島白菊特攻隊とは？

太平洋戦争末期に旧徳島海軍航空隊にて突如、編成された隊です。志願制ではなく、飛行隊をそのまま特攻隊へと編成替えをしたそうです。

また、元々は帝国海軍が偵察搭乗員を教育するための練習機として配備していた飛行機「白菊」が、戦局の悪化とともにそれすらも特攻攻撃に使用されました。250キロの爆弾を2個積み、飛行速度は150キロがや



昭和20年5月20日、特攻隊出撃を前に撮影された。



今年1月、語り継ぐ会が設立され、元特攻隊員の田尻正人さんの記念講演が行われました。

つとだったそうです。

この特攻作戦は極秘で行われました。家族にも友人にも知らされず、5月24・27・28・6月21・25日の計5回にわたり出撃が行われ、28機56名の若者が沖繩の海に消えていきました。

◆白菊花火は、その出撃日に合わせて行っているということですね？

そうですね。今年も行う予定です。一つの特攻機に2人乗って出撃したので、2発の白い菊形の花火を、追悼の意味をこめ、例年は打ち上げています。

◆会として今後の目的、予定を教えてください。

今年は終戦から70年という重要な年でもあります。会としては「徳島白菊特攻隊の史実を語り継ぐ」「尊い命への鎮魂の思いと、恒久平和を次世代へ繋いでいく」という2つの綱領を目的のもとに、これからも活動を行っていく予定です。

戦争体験者が少なくなってきた昨今、細かなことでもとにかく事実を聞かせて頂き、それをまた、若い人たちにも伝えていきたいと思っています。特攻隊で命を亡くされた方は、15歳から25歳の本当に若い人たちです。こういう史実があったこと、自分たちと同じ位の歳の人たちが特攻隊として飛び立っていたということ、特に若い世代に知ってもらいたいです。

徳島白菊特攻隊を語り継ぐ会

tel.090-1007-5260

※入会随時受付中

白菊花火2015

5月23日・24日・27日・28日

6月21日・25日

午後8時前後 小松海岸にて